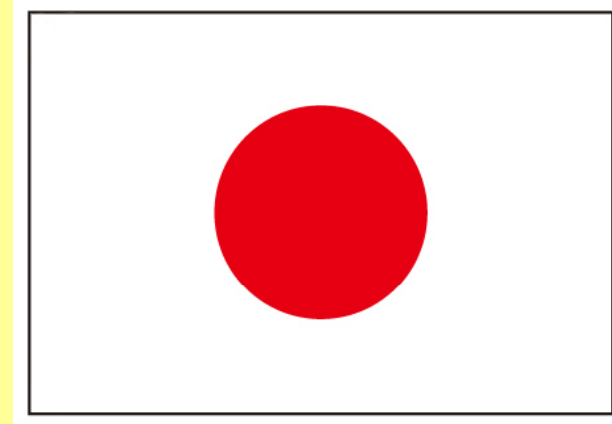
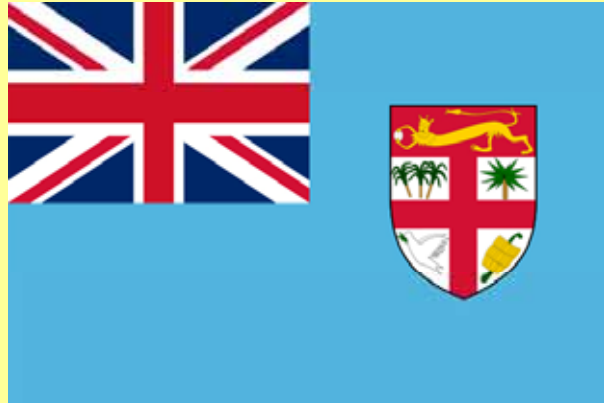


第4弾



JICA草の根技術協力事業

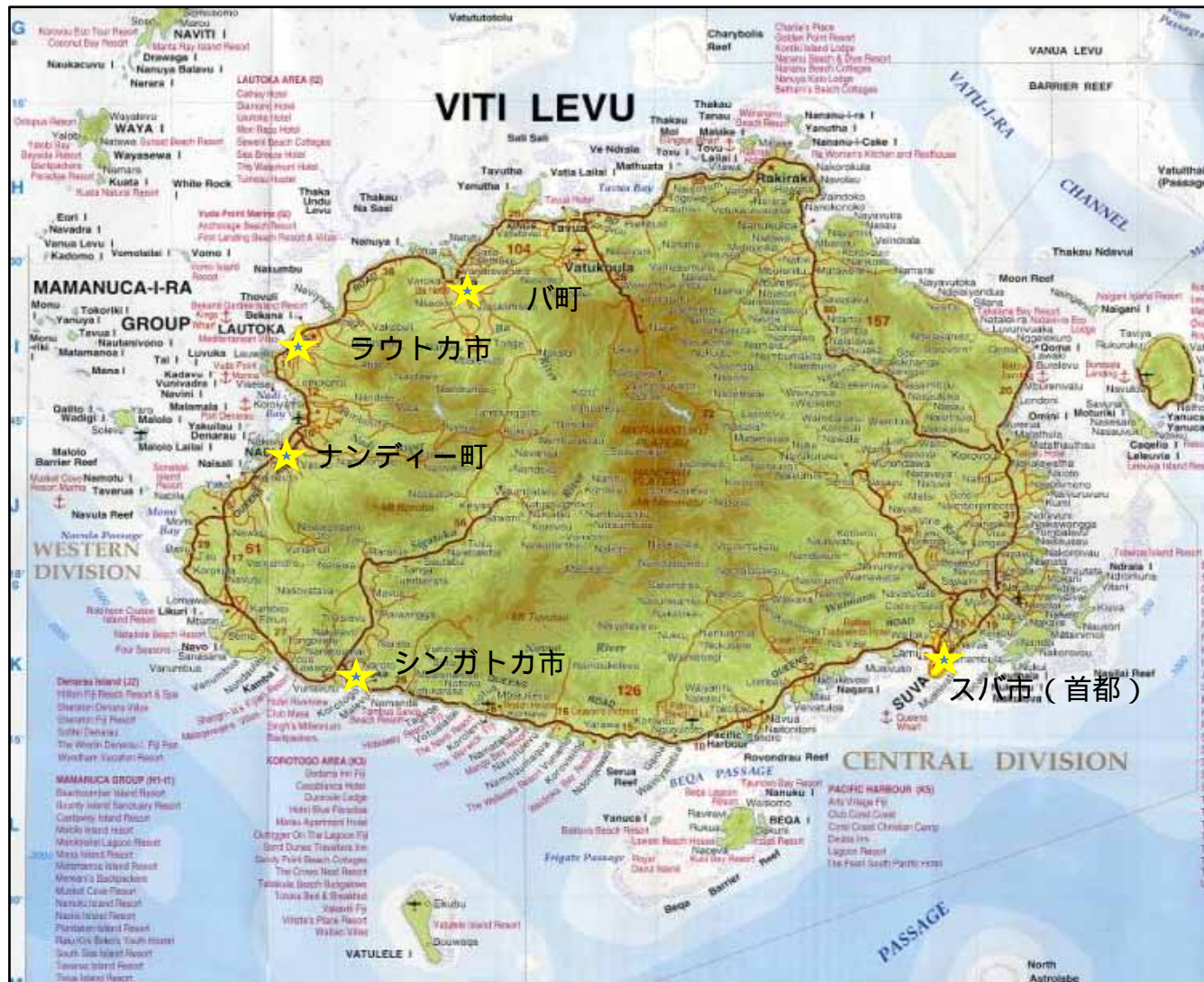
フィジーを中心とした大洋州における
『志布志市ごみ分別モデルの推進』

志布志市専門家派遣

平成23年10月30日（日）～11月8日（火）

フィジー国の概要

ヴィチレブ島



フィジー共和国

人口: 849,000人
面積: 18,270Km²

ヴィチレブ島を中心に
300余りの火山島・珊瑚礁
(日本の四国ぐらゐの面積)

人種: フィジー系 51%
インド系 44%
その他 5%

宗教: キリスト教 52%
ヒンドゥー教 38%
イスラム教 8%

言語: 英語
フィジー語
ヒンディー語、
ウルドゥー語

これまでの経緯

- 2007.8.28 中央環境審議会「志布志市の環境政策」発表
- 2007.10.25～26 国際協力機構(JICA)来市
- 2008.10.14 委嘱:フィジー国廃棄物減量化・資源化促進プロジェクト国内支援委員会委員
- 2008.11.8～15 運営指導調査に同行「一期一会」
- 2009.11.24～26 カウンターパート(CP)職員来市
- 2010.5.28～6.6 中間評価調査に同行「国づくりは人づくり」
- 2010.9.6～9 カウンターパート(CP)職員来市
- 2010.10 JICA草の根技術協力事業(地域提案型)に応募
事業名:「フィジー国を中心とした大洋州における志布志市ごみ分別モデルの推進」
- 2010.12 採択
- 2011.7.3～7 キックオフミーティング(開始式、市長議長参加) 於 フィジー
- 2011.9.9～19 JICA草の根技術協力事業 志布志市研修
- 2011.10.30～11.8 JICA草の根技術協力事業 志布志市専門家をフィジーに派遣

「志布志モデル」とは、焼却なしでごみを分別し埋立ごみを減らす共生協働の取り組みのことです。

ラウトカ市 訪問

人口45,000人



ラウトカ市役所を訪問

市長（SA）・助役（CEO）をはじめ多くの職員の歓迎を受けました。ラウトカ市の住民説明会についての打ち合わせを行いました。

ラウトカ市最終処分場の視察

ラウトカ市の最終処分場

ラウトカ市 45,000人

ナンディー町 15,000人

計 60,000人から

排出されるごみが集まってきます。



転圧のみで、覆土がされていないため、匂いがありました。また、野犬もいました。

市場から発生した生ごみは、最終処分場の1画で堆肥化を実施
製造方法については、機械化されていないだけで、志布志市
と同じ方法です。



搬入された草木は、チップパー（破碎機）
により、細かく粉碎されます。



出来上がり良好！

堆肥としての成分検査は行われて
いないものの、非常に質のいい堆肥が
完成しています。



日差しが強いため、ビニールシートで
被います。



専門家（そおりサイクルセンター職員）に
よる技術的な指導

温度管理の徹底
水分の管理の徹底

ラウトカ市 フィールド40地区での住民説明会の実施



当初、50人の参加があれば大成功と言われていましたが、100人近い方々に「志布志モデル」の話を聞いていただきました。市民の熱気が伝わってきます。また、アンケート結果によると、多くの人「志布志モデル」が理解できたとのことでした。

ナンディ 町 訪問 人口15,000人



市長（SA）・助役（CEO）をはじめ
多くの職員の歓迎を受けました。
ナンディ 町の住民説明会につい
ての打ち合わせを行いました



ナンディー町シンガム小学校 (3R活動視察)



学校で出たごみは、持ち帰って分別します。



ナンディー一町堆肥化施設



市場から集められた「野菜くず」



機械が無いので、手作業で破砕



専門家（そおりサイクルセンター職員）
による技術的な指導

温度管理の徹底
水分の管理の徹底

ナンディ 町 マタボリボリ地区での住民説明会の実施



マタボリボリ地区の住民説明会も、70人を超える方々に「志布志モデル」の話をお願いいたしました。多くの質問がありました。

フィジー国 3R セミナー 参加(1日目)

フィジー国内の廃棄物の担当者が集まり、

資源物回収のためのガイドライン
3R 推進計画マニュアル
が発表されました。

志布志モデルが参考となっています。



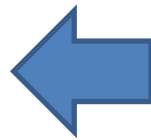
会場の「ウォーターフロントホテル」
(ラウトカ市)



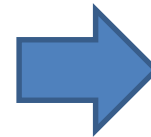
フィジー国 3 R セミナー参加 (2日目)



志布志市の環境政策



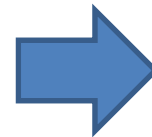
最終処分場の管理



収集運搬・中間処理



堆肥化施設の概要





ラウトカ市・ナンディー町の
担当者による

志布志市での研修報告

中間処理施設(民設・民営)



空き缶のプレス作業(手作業)



現在、ラウトカ市、ナンディー町の一部の地域では、空き缶類、ペットボトル、紙類、金属類が回収され、再資源化施設へ搬出されます。

再資源化施設は、海外にあるため、高額な輸送費用を確保することが課題となっています。

JICA フィジー事務所、フィジー国環境局 訪問

10月31日(月)～11月3日(木)までの事業報告
2012年度・2013年度の事業概要報告と協力依頼



バ 町 訪 問



土曜日(休日)にも係わらず、町長(SA)が出勤して歓迎してくださいました。フィジー国の経済はバ町から発展したといわれるほど、経済人を多く排出した自治体です。来年度以降の活動について意見交換を行いました。

バ町 最終処分場 視察



雨季用と乾季用に分けてあり、覆土もされており、管理されていました。

専門家（清掃センター職員）により、雨水処理のための側溝布設や溜め池の設置等今できる改善のためのアドバイスを行いました。



バ町の堆肥化施設

専門家（そおりサイクルセンター職員）
による技術的な指導

含水率の管理
発酵温度の管理
発酵の遅い品目
発効促進のための微生物
切り替えしの時期

最後に

フィジー国のごみの減量化・再資源化促進のために3R活動は非常に重要であるが、国内に再商品化事業者が無いため、国外に輸出しなければならないため、費用負担が大きい。

しかし、有価で引き取られるもの（金属類（空き缶等）、ペットボトル類、紙類）については、少しずつではあるが、分別回収が始まり、住民の意識も高まってきている。

さらに、最終処分場に搬入されるごみの約50%が、生ごみと草木であることから、堆肥化への取り組みは大きな成果が期待される。

今回、志布志市から専門家チームを派遣し、住民の意識改革、最終処分場の管理、堆肥化の技術指導など、具体的な指導ができ大きな成果を収めることができたと感じています。

